

なかよし

天童中部小学校
いちよう学級だより
R4. 7. 5
No. 9

温かなかかわりで得られる力

「あれ？これどこに運ぶんだろう。通りすがりに、これ片付けてって言われたからわからないんだよ。」

自分の身長よりも高い折り畳み机を運ぶAさん。どこに置いたらよいか分からず、机から手を放してその場から離れようとしたとき、「その机はここだよ。」と近くの先生に声をかけられました。するとまた戻り、手で押して、机を置く場所まで運びました。この机を使っていた教室の前をたまたま通った時に、机を片付けてほしいと頼まれたのだそうです。Aさんのつぶやく声の調子は、明るくて、頼まれたことが嫌ではなさそうで、むしろ、ちょっと嬉しそうにも見えました。運んだ後にはタタタ…と足取り軽く自分の教室に戻っていきました。



Aさんは、友達と遊んでいる時に、自分の伝えたいことがあると、必ず「〇〇ちゃん」「〇〇君」と、名前を呼んでから話を始めます。元気いっぱいな年頃なので、じゃれ合ったり、ちょっと乱暴に見えたりするような遊びも年齢相応にありますが、そんな中でも友達を呼ぶ声はいつもやさしいのです。友達との会話の中でAさんが話した時に、「それは違うよ。」と友達に言われたとしても、言い返すことなく、「あ、そうなんだね。」と受け止めています。そのやり取りがとても心地よく聞こえ、そこには和やかな空気が流れていました。

Aさんは以前、友達と仲良くかかわりたいのに、けんかになってしまったり、どうやって友達と気持ちを交わし合ったらよいかわからなかったりして、悩んだ時期がありました。Aさんと一緒に相手の子の思っていることを想像してみたり、どうやって謝ろうかと作戦を考えたりしました。そのようなことを繰り返すうちに、Aさんは自分の心を開き、相手の気持ちも受け入れて、温かな関わりづくりができるようになっていきました。

温かく人と関わることができることは、自分らしく生きていくための活力になります。机を片付ける場所がわからなくても、まずは引き受けてやってみようとしたAさんはきっと、これまで築いてきた温かな関わりが土台となっていて、そこから得られたエネルギーを人のために役立てるよう使うことができているのだと思います。子供たちは毎日を積み重ねて、成長しています。私たちも、子どもたちの成長にエネルギーをもらう日々です。ご家庭でのご支援、ご協力もいつもありがとうございます。7月14日から保護者面談も始まります。お子さんの育ちについて共有できれば幸いです。よろしく願いいたします。